



京浜事業所環境報告書

2009年度



目次

ごあいさつ	2
京浜事業所の概要	2
製品紹介	3
環境保全活動	
環境マネジメントシステム	6
環境保全基本指針	6
環境保全体制	7
環境ボランティアプラン（環境自主行動計画）	7
製品における環境配慮	8
環境調和型製品の提供	8
事業所における環境配慮	
京浜事業所の環境負荷	9
施設管理 / 常時監視体制	10
地球温暖化防止（省エネルギー活動）	11
化学物質の排出量削減	12
資源の有効活用（廃棄物削減）	13
調達活動	14
環境会計	14
全員活動・地域との共生・コミュニケーション	
従業員の啓蒙活動 / 環境月間	15
異常事態想定訓練 / 外部コミュニケーション	16
外部コミュニケーション / 全員活動・地域との共生	17
海芝公園	18
2009年度の新規取り組み	19

報告対象範囲

本報告書の記載範囲は、（京浜）地域に所在する組織、（株）東芝から分離した法人（以下、構内関係会社）及び（株）東芝以外の法人（以下、構内駐在会社）で働くまたは組織のために働くすべての人が担当する業務活動、製品、サービスとします。

ごあいさつ



京浜事業所長

後藤元晴

今、世界中で地球環境への危機が叫ばれ、中でも地球温暖化は特に重要視されています。日本でも首相が世界に対し2020年までに温室効果ガス25%削減を目指すことを表明し、我々の到達点がより具体的になってきました。それに先駆けて東芝グループでは地球環境問題の解決に向け2050年のあるべき姿（「地球と調和した人類の豊かな生活」）を描き、そのための課題を解決していくことを環境ビジョン2050として策定いたしました。

その中で、エネルギー機器を製造する私たち東芝京浜事業所は、今後ますます需要の増えるエネルギーの安定供給と地球温暖化の防止との両立による

「エネルギーアプローチ」を担っています。

火力発電機器においては、エネルギー効率の優れた製品を開発して世界中のお客様にお届けすることで化石燃料の節約やCO₂の削減に貢献し、また、CO₂を排出せずに発電ができる原子力発電機器や水力発電機器の性能を向上させることで、エネルギー供給に伴うCO₂発生量全体を抑制することができます。環境負荷の少ない製品の研究・開発に注力すること、つまり、私たちの本来業務がそのまま環境負荷の低減につながっていると言えます。

製品による貢献と共に、東芝ボランタリープランに基づいて環境保全に関する中期・短期的な目標値を定め、地球温暖化の防止、資源の有効活用、化学物質の排出量削減など事業活動の中での環境負荷の低減に取り組んでいます。自分たちの製品が世界のCO₂削減に少なからず貢献することを自覚し、責任と誇りを持って事業活動を進めています。

この環境報告書は、私たち京浜事業所の環境保全活動の内容と成果をまとめたものです。この報告書をご一読いただき、ご理解をいただくとともにご意見をお聞かせいただければ幸いです。

京浜事業所の概要

設立年月 1925年（大正14年）8月
所在地 横浜市鶴見区末広町2丁目4番地
敷地面積 477千m² 延床面積 340千m²
従業員数 2,201人
(2009年3月31日時点)



【入舟分工場】：工業地域
横浜市鶴見区寛政町20番1号
敷地面積27千m² 延床面積14千m²



【西分工場】：工業専用地域
横浜市鶴見区末広町1丁目9番地
敷地面積92千m² 延床面積66千m²



【本工場】：工業専用地域
横浜市鶴見区末広町2丁目4番地
敷地面積358千m² 延床面積260千m²

製品紹介

火力発電機器

火力発電所では化石燃料を燃やして蒸気を発生させ、その蒸気力で蒸気タービン発電機を回して電力を発生させます。この火力発電所で使用する蒸気タービン発電機と熱交換器を設計、製造しています。また最近ではエネルギーの有効利用として、ガスタービンを回して発電し、そこから排出された高温の排ガスを再利用して蒸気を発生させ、その蒸気力で蒸気タービン発電機を回して発電するコンバインドサイクルプラントが数多く建設されています。これらの火力発電機器の効率を上げる事が直接CO₂の排出量削減に繋がるため、技術開発による性能向上に注力しています。



火力発電所

蒸気タービン・ガスタービン

蒸気タービンのタイプと工場組立



H型コンバインドサイクル



1000MW TC4F-40"/60Hz
(24.6atg/566 /593)



14.0MW SCSF-42"/50Hz

18.0MW TCDF-3.5"/60Hz

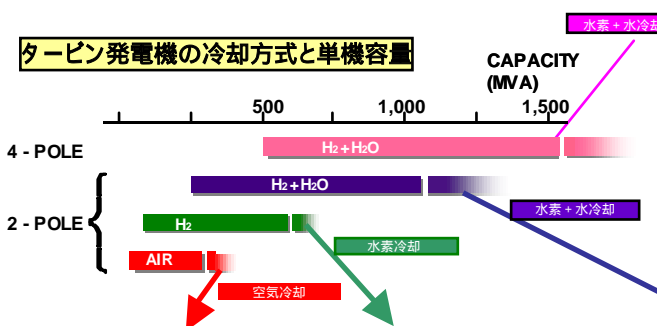
28.5MW TCDF-48"/50Hz

70.0MW TC4F-40"/60Hz
(24.6atg/593 /593)

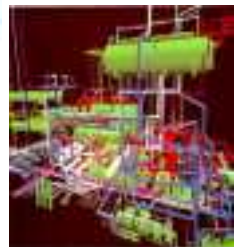
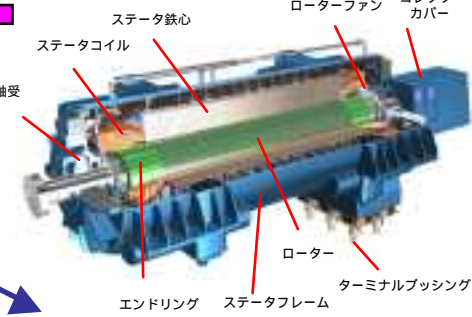
蒸気タービンのシリーズ
Steam Turbine Series

タービン発電機・復水器他

タービン発電機の冷却方式と単機容量



発電機の構造



3D-CAD 配管図



空気冷却発電機
2P-50Hz-250MVA



水素冷却発電機
2P-50Hz-563MVA



大容量水冷却発電機
(2P-60Hz)1,120MVA



給水加熱器



復水器

原子力発電機器

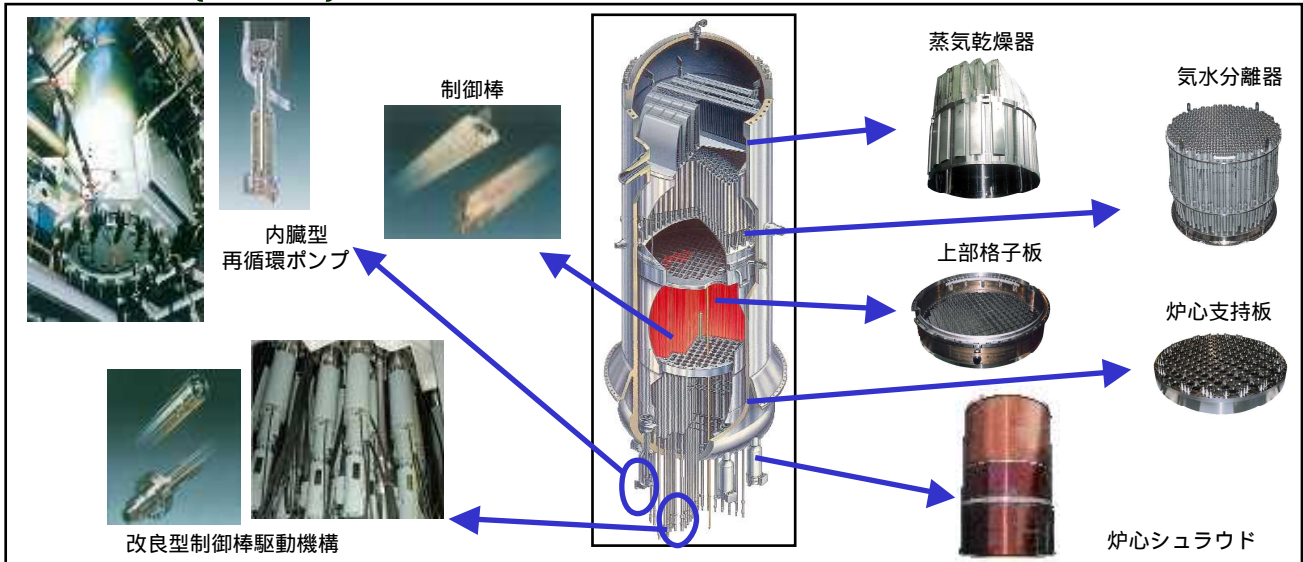
原子力発電は、ウラン燃料の核分裂で得られる熱を利用して蒸気を発生させ、その力で発電機を回して電力を発生させます。化石燃料を燃やさないためCO₂を排出しないクリーンエネルギーとして注目されており、現在日本の電力の3分の1を担っています。

この原子力発電所の主に沸騰水型と呼ばれる原子炉及びその出力制御機器などの設計、製造をしています。



原子力発電所

原子炉構造 (ABWR)



炉内保全技術

炉内点検

遠隔操作 (ロボット) による検査技術



水中小形ビーグル



フラットビーグル



レーザービーニング



放電加工



シュラウドの交換



ジェットポンプの交換

予防・事後保全

遠隔操作による補修技術

統合保全

世界初のシュラウド交換技術

水力発電機器

水力発電では水の落差によるエネルギーを利用して電力を発生させ、CO₂を発生させない自然エネルギーです。電力使用量の変動に対応しやすいので負荷調整用としても利用されます。この水力発電所の水車発電機及びその制御機器の設計、製造をし、さらなる効率向上に注力しています。



水力発電所

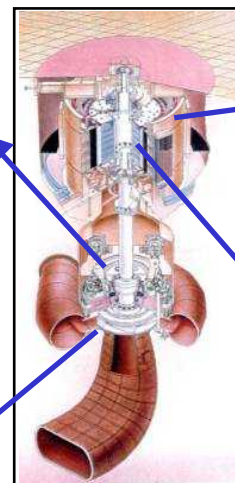
水車及び水車発電機



上カバー及びガイドベーン開閉機構



水車ランナー



発電機ステーター (固定子)

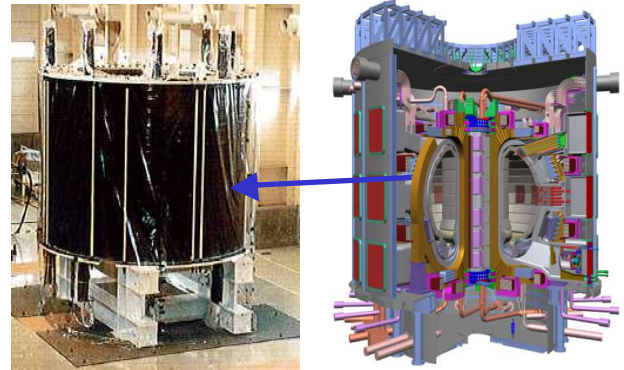


発電機ローター (回転子)

● 新エネルギー：超電導機器

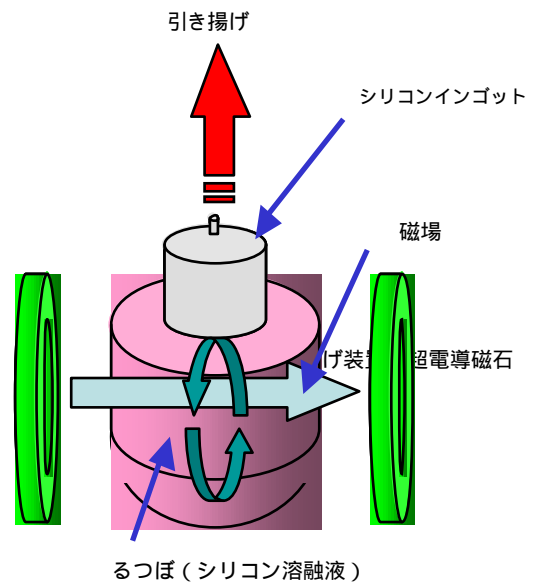
CSコイル（国際熱核融合実験炉（ITER）向）

核融合炉は未来の無限のエネルギー源として期待されています。海水からほぼ無尽蔵に燃料を抽出でき、二酸化炭素も一切発生しません。いよいよ国際核融合実験炉（ITER）の建設がフランスで始まりますが、東芝はこれまで超電導センターソレノイドコイル（CSコイル）、炉内構造物保全用大型遠隔保守装置（ピークルマニピュレータ）、真空容器などのR&Dを行い、建設開始に向けての開発に貢献してきました。ITERの建設にあたっては真空容器、超電導コイル、ピークルマニピュレータなどの機器の受注に向け活動しています。



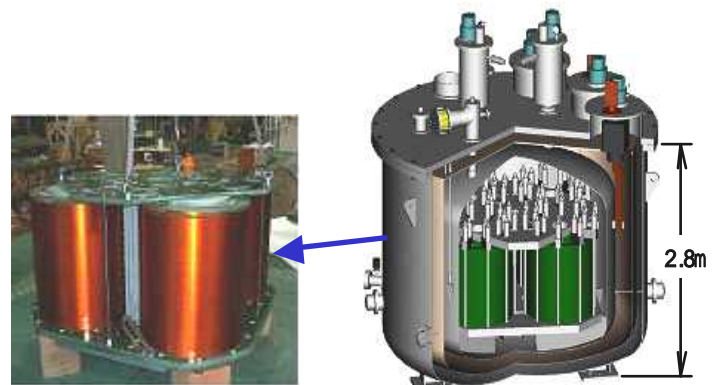
単結晶引き上げ装置用超電導磁石

シリコン単結晶は現代のエレクトロニクス社会に無くてはならない材料です。その製作には超電導磁石が用いられています。シリコン単結晶は多結晶シリコンを溶かしたルツボからゆっくり成長させながら引き上げます。溶融シリコンの中で対流があるとルツボの不純物が溶け出すなどして、品質の良いシリコン単結晶が作れません。そこで、超電導磁石で強い磁場をかけて対流を抑制します。常電導磁石を使うのに比べ大幅な省電力を実現しています。



超電導電力貯蔵装置（SMES）

現在の生産現場では、雷などで瞬間的に電力系統の電圧が低下すると、電子機器が停止し、多大な損害が発生することがあります。このような瞬間的な電圧低下を補う、超電導電力貯蔵装置（SMES）を製作しています。超電導磁石に20MJの磁気エネルギーを蓄え10MWの電力を1秒間補える装置をシャープ亀山工場に納入しました。蓄電池などに比べ有害物質の少ないクリーンな装置です。

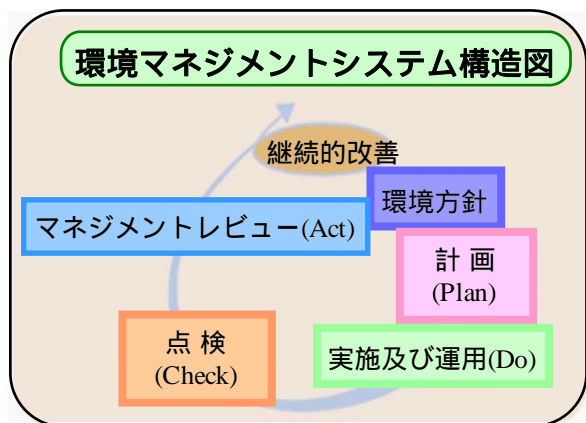


環境保全活動

● 環境マネジメントシステム

電力システム社では、2007年2月より本社から事業所まで統合した環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しました。

京浜事業所も事業所として取得していたISO14001から、電力システム社全体の環境マネジメントシステムに移行し、ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムのサイクル(Plan-Do-Check-Act)により環境保全活動の継続的改善を図っております。



京浜事業所環境マネジメントの歴史

- 1997年 8月：ISO14001認証取得
- 2005年 8月：新規格ISO14001:2004認証取得
- 2006年 8月：3回目の更新審査に合格
- 2007年 2月：電力システム社環境マネジメントシステムへ統合
- 2007年 12月：一年次サーベイランス受査
- 2008年 12月：二年次サーベイランス受査



ISO : International Organization for Standardization 国際標準化機構

ISO14001の認証は審査登録機関の株式会社日本環境認証機構(JACO)による審査を受査し、3年毎に更新しています

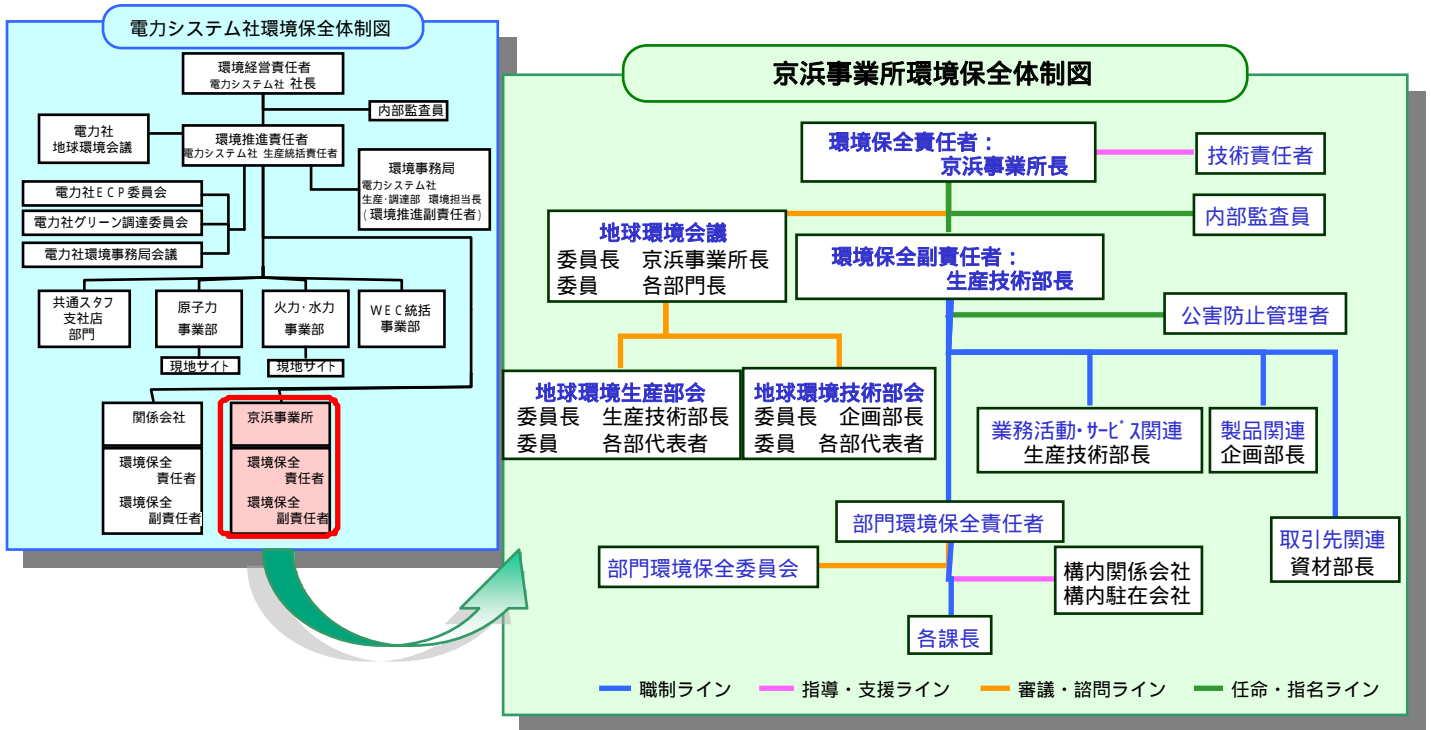
● (株)東芝 京浜事業所 環境保全基本指針

京浜事業所は、(株)東芝 電力システム社 環境経営基本方針に基づき、エネルギー機器事業の中核工場として、環境調和型製品の提供および東京湾に面して立地している周辺環境の保全に努め、持続可能な社会へ貢献します。

- 1、環境保全への取り組みを、経営の最重要課題の1つとして位置付け、技術的、経済的に可能な範囲で、継続的な改善・向上に全従業員で取り組みます。
- 2、環境保全に関する法令等を順守すると共に、自主基準を設定し汚染の防止に取り組みます。
- 3、製品の開発・設計段階で環境影響評価を行い、環境負荷の低減に配慮した環境調和型製品を提供します。
 - (1) 地球温暖化防止、省エネルギー化、省資源化に寄与する高効率で軽量、長寿命な製品の開発
 - (2) 有害物質を含まず再資源化が容易な原材料の採用
- 4、生産活動に関する環境影響評価を行い、環境負荷の低減や汚染の防止に取り組みます。
 - (1) 水質汚濁と大気汚染の防止
 - (2) 化学物質の適性な管理と環境負荷の小さい物質への代替化
 - (3) 廃木材、廃油など廃棄物の3R (Reduce, Reuse, Recycle) の推進
 - (4) 電力、都市ガスの消費抑制を主体とした省エネルギーの推進とCO₂排出量の低減
 - (5) グリーン調達による、環境負荷の小さい部品、材料の購入の推進
- 5、取引先や近隣との協調を図り、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

環境保全体制

京浜事業所長（環境保全責任者）及び生産技術部長（環境保全副責任者）のもと 製品・技術、業務活動・サービス、取引先の別にそれぞれ環境保全責任者を設け運営しています。また、地球環境会議や地球環境生産部会及び地球環境技術部会を審議・諮問機関として活動しています。



環境ボランティアプラン (環境自主行動計画)

東芝グループは「2000年度を基準とした2010年度の東芝グループ総合環境効率を2倍にします。」という「環境ビジョン2010」を公表し、その実現のために、第4次環境ボランティアプラン（拡張）を設定しました。「環境調和型製品の提供」「地球温暖化の防止」「資源の有効活用」「化学物質管理」の4アイテムの具体的な数値目標として2012年までの目標を定めています。京浜事業所はこれに基づき独自の目標を定めて環境保全活動を推進しています。

		指標	(京浜)実績/目標		東芝Gr.目標	
			2008年	2009年	2012年	
製品 環境効率 の向上	環境調和型製品の提供	環境調和型製品の 売上高比率	69%	70%	80%	
	特定化学物質の全廃	製品に含まれる 特定15物質群	全廃比率 80%	全廃比率 100%	全廃	
業務 プロセス の革新	地球温暖化 の防止	エネルギー起源CO2 排出量の削減	総排出量原単位 ⁽¹⁾	27.8%削減	28.4%削減	47%削減
		温室効果ガス (エネルギー起源以外) 排出量の削減	総排出量	8%増	'08年度 実績維持	38%削減
		物流CO2排出量の 削減	総排出量原単位	1,880 t-CO2	対'08年度 積載率1%向上	44%削減
	資源の 有効活用	廃棄物総発生量の 削減	総排出量原単位	29.3%削減	29.3% 削減維持	24%削減
		製品リユース ・リサイクル	使用済製品 ⁽²⁾ 再資源化量	当事業所は対象外		(180%)
		水受け入れ量生産高原単位削減		800.4 m3/億円	対'08年度 1%削減	10%削減
化学物質 管理	大気・水域への 総発生量削減	総排出量	48.8%削減	43.4%削減	54%削減	

1 1990年度基準

2 2001年度(家電リサイクル法の施行年度)基準

製品における環境配慮

環境調和型製品の提供

エネルギー機器を生産している京浜事業所では、より環境負荷の少ない製品の研究・開発に力を注いでいます。

火力発電機器の効率を向上させることで、化石燃料の消費とCO₂発生を抑制。

CO₂を排出しない原子力発電機器や水力発電機器の性能向上。

製品の長寿命化、コンパクト化による省資源化。

有害化学物質の使用廃止。

環境調和型製品事例

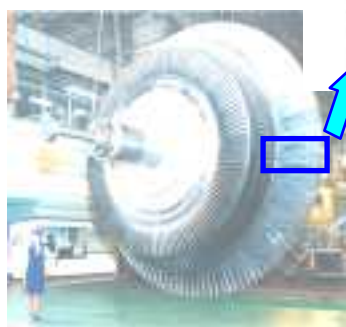
タービン性能向上

・国内最大級の長翼開発のための解析技術

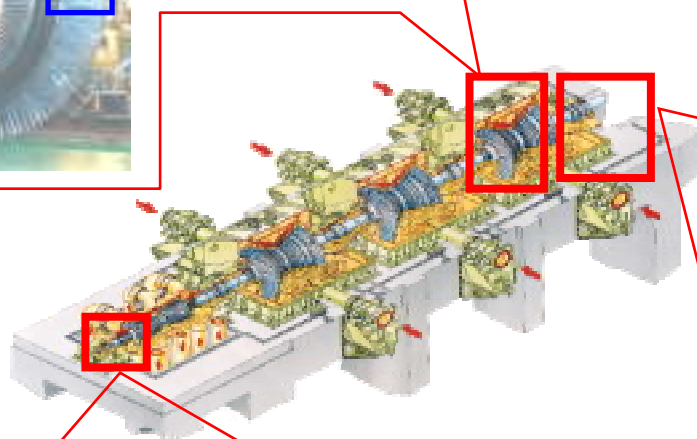
最終段動翼

最終段静翼

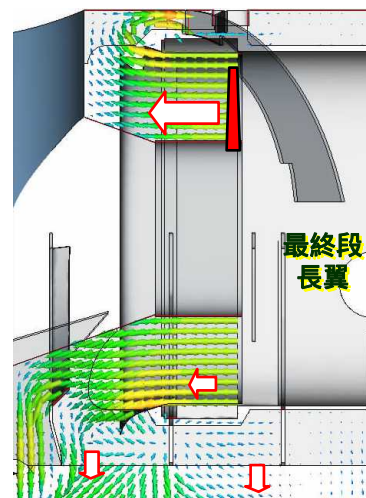
湿分分離溝



液滴追跡解析による
湿分分離溝最適化

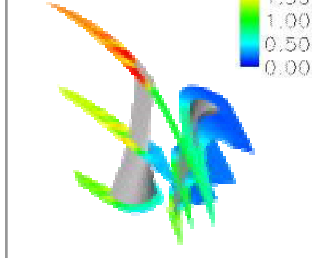


・高性能排気室の解析

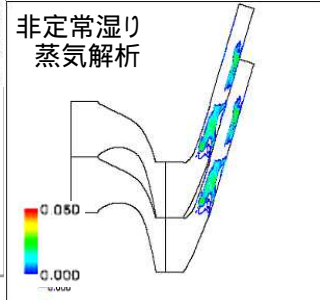


・高性能3次元設計翼の開発のための解析技術

3次元段落解析



非定常湿り
蒸気解析

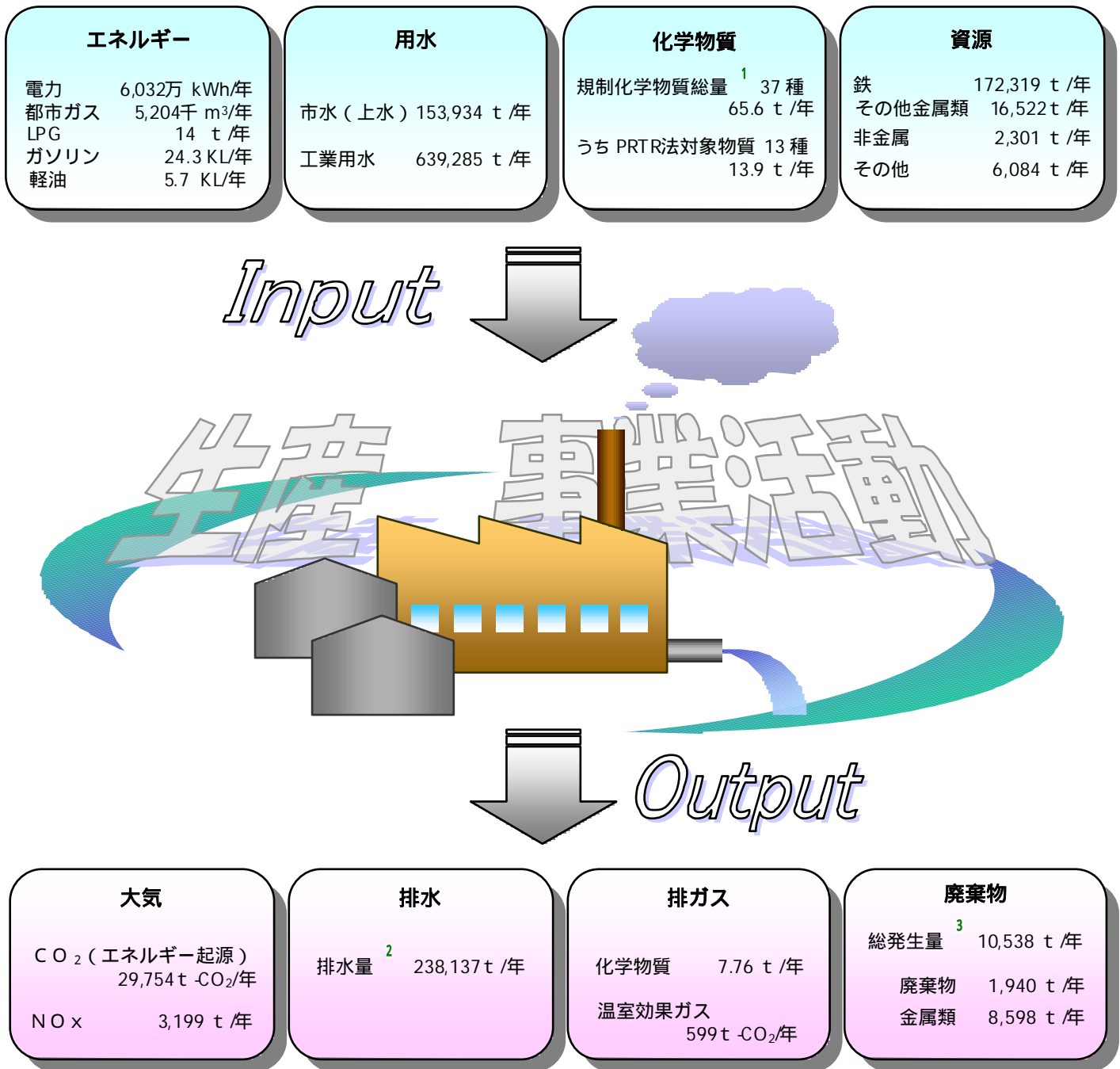


事業所における環境配慮

京浜事業所の環境負荷

京浜事業所の事業活動に伴う環境負荷の主なものは、エネルギー使用、用水の使用、化学物質の使用、大気へのCO₂・排ガス等の排出、海域への排水放流、廃棄物の排出などがあります。私たちは、これらの環境負荷を把握し、可能な限り低減するための諸施策を実施することにより、環境に優しい、より良い製品作りを目指しています。下図は2008年度の当事業所における環境負荷を示します。

京浜事業所の環境負荷2008年度実績

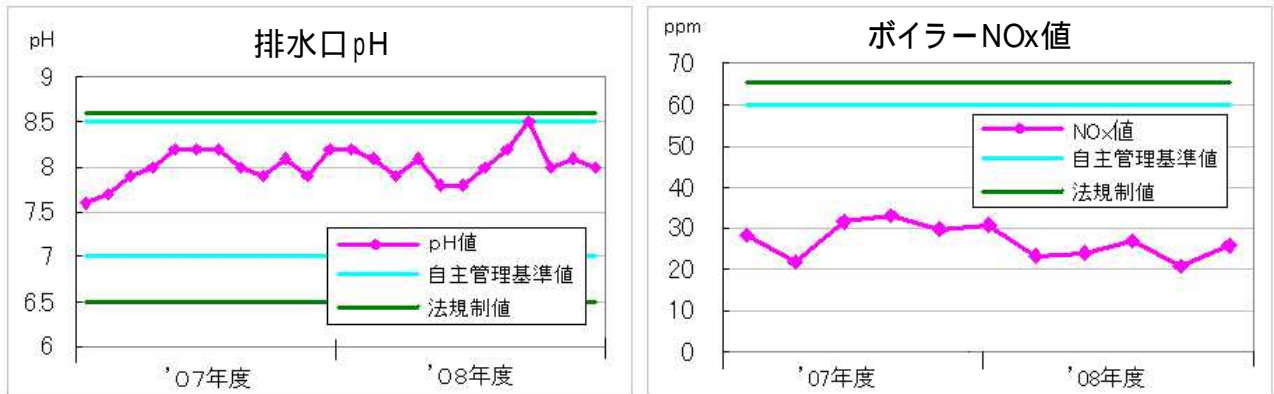


1 規制化学物質：東芝第4次環境ボランタリープランで定める449種の化学物質のうち、当事業所で使用しているもの
 2 排水量：雨水を含まない工程系排水、生活系排水の測定値
 3 総排出量：金属、紙類等リサイクルできる有価物も含めた排出物の総量

● 施設管理（排水・排ガス等関連）

京浜事業所は、法令に基づいて排水や排ガスの定期測定を実施しています。また、2006年3月に横浜市と環境保全協定を締結し、環境への負荷を軽減するために事業者が行うべき取り組みについて合意事項を定め、法規制値を守るだけでなく、さらに厳しい管理を実施しております。

トレンド事例

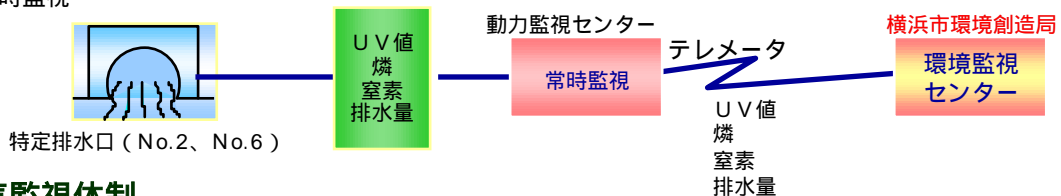


● 常時監視体制

京浜事業所では、定期分析のほかに、特定施設からの排水と生活雑排水の水質及び煤煙発生施設からの排ガスを常時監視し、リアルタイムで横浜市環境創造局に送信しています。

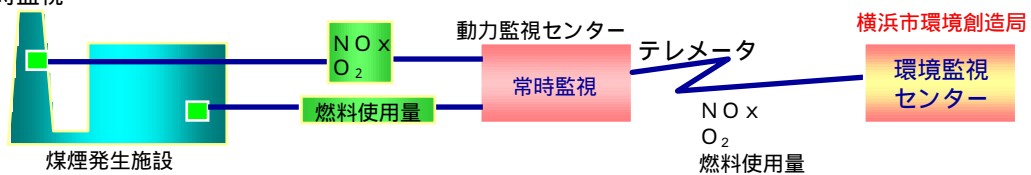
水質監視体制

排水の常時監視

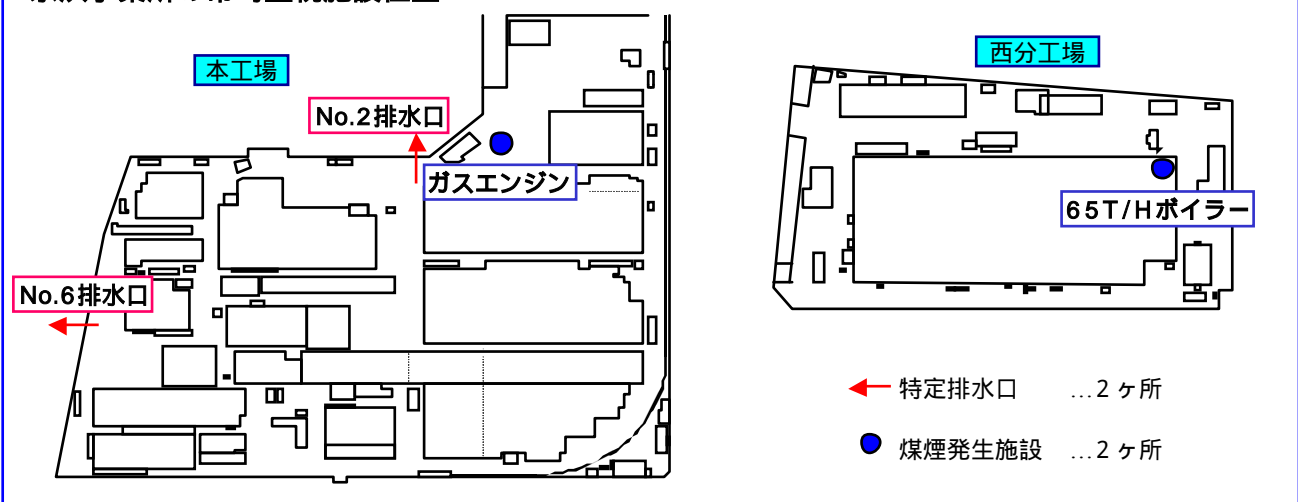


大気監視体制

排ガスの常時監視



京浜事業所の常時監視施設位置

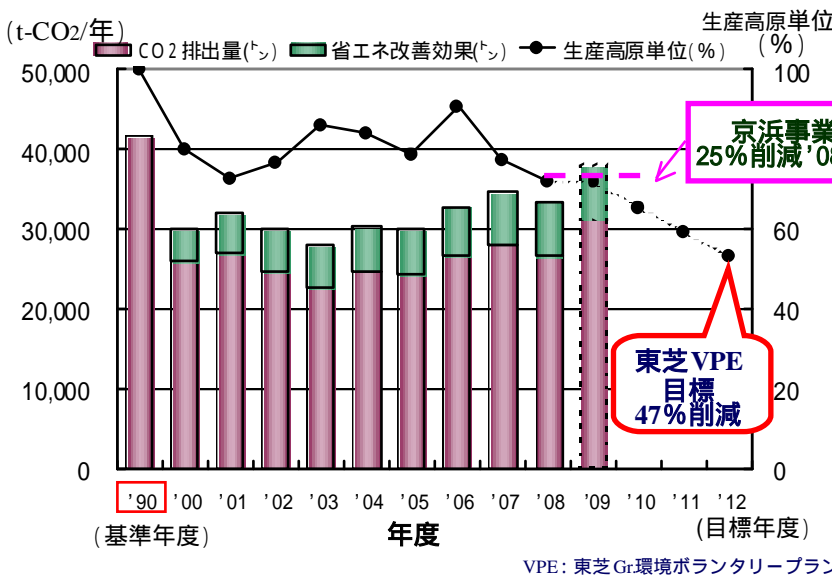


● 地球温暖化防止（省エネルギー活動）

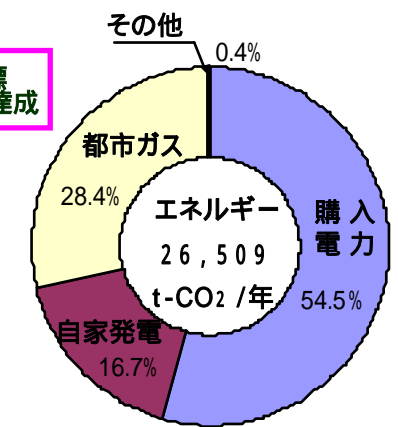
京浜事業所は、エネルギーの使用の合理化を目的とした省エネルギー新スキームによる機器選定、管理、点検等を実施するためにエネルギー管理標準の作成などを積極的に推進してきました。また動力設備の効率運転、省エネルギー機器の導入、省エネパトロール実施など運用面での改善も積極的に展開しています。

京浜事業所は、CO₂原単位排出量（CO₂排出量/生産高：単位 t-CO₂/億円）を管理指標とし、1990年を基準年度として2010年度までに25%削減することを目標に掲げ省エネに取り組んでいますが、2008年度は工場内コンプレッサーの更新、エア漏れ改善、天井照明の効率化、休憩室のエアコン自動制御および室内外機器の洗浄（フィルター・フィン）などを実施しました。また、自家発電設備（ガスエンジン）の運用方法の変更により、CO₂排出量を前年度より大きく削減することができました。1990年度比ではCO₂排出量は約36%、生産高原単位では約28%の削減となり、2010年度目標（25%削減）を達成することができました。

エネルギー排出量・原単位



エネルギーの内訳（2008年度）



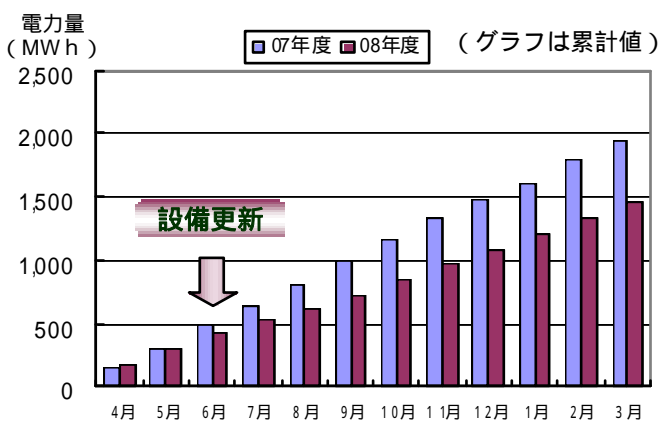
(注) 自家発電（ガスエンジン）はCO₂削減の観点から'08年度の運転は所内電力ピーク対応として使用。

省エネ活動事例

事例 1：コンプレッサーの更新

概要：工場内のコンプレッサーの一部をレシプロからスクリー式に更新するとともに、エアドライヤーを設置し、電力量の削減を実施しました。（'08実績）

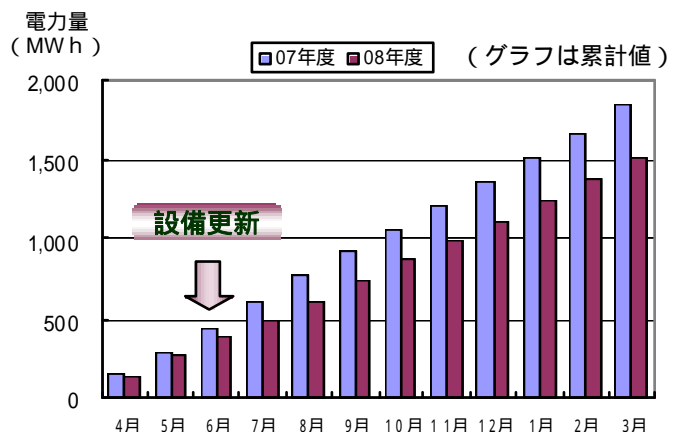
効果：改善前 1,961MWh / 年（722t -CO₂）
改善後 1,450MWh / 年（534t -CO₂）
削減量 511MWh / 年（168t -CO₂）



事例 2：天井照明の効率化

概要：工場内の天井照明については、計画的に高効率タイプの照明機器に更新しています。08年度は約300個の天井照明に高効率タイプを採用し、電力量の削減を実施しました。（'08実績）

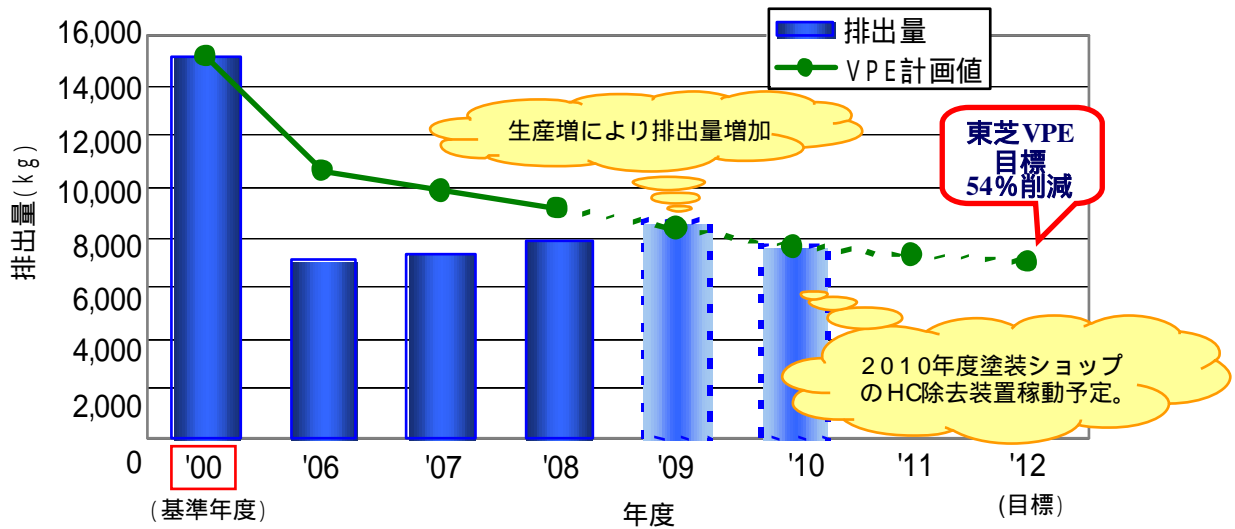
効果：改善前 1,850MWh / 年（681t -CO₂）
改善後 1,506MWh / 年（554t -CO₂）
削減量 343MWh / 年（126t -CO₂）



● 化学物質の排出量削減

京浜事業所では、東芝ボランタリープランで定める規制化学物質449物質中37物質を使用しています。中でもトルエン、アセトン、メチルイソブチルケトン、キシレンなどは塗装や洗浄に多く使用されています。

2000年度を基準に2010年度までに50%削減、2012年度までに54%削減を目標とし、作業手順の改善や新しい塗料の開発により、化学物質の削減に取り組んでいます。

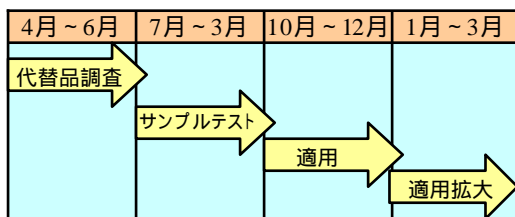


規制化学物質削減事例

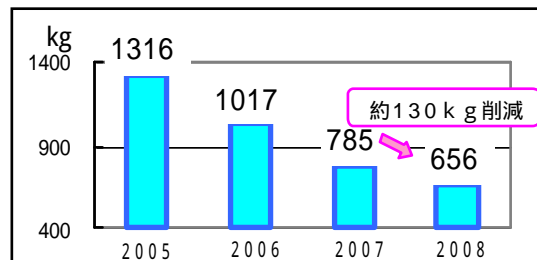
アセトン代替品の開発

含浸樹脂の洗浄及び部品の脱脂洗浄に使用しているアセトンの削減に取り組んでいます。今までも使用上の改善努力により、ある程度の成果をあげてきましたが、'08年度より代替品導入による削減に取り組みました。この取組みにより、削減対象となったアセトンの使用量を約130kg削減することができました。

'08年度アセトン代替品開発スケジュール



削減対象アセトン使用量の推移



低VOC塗料の標準化

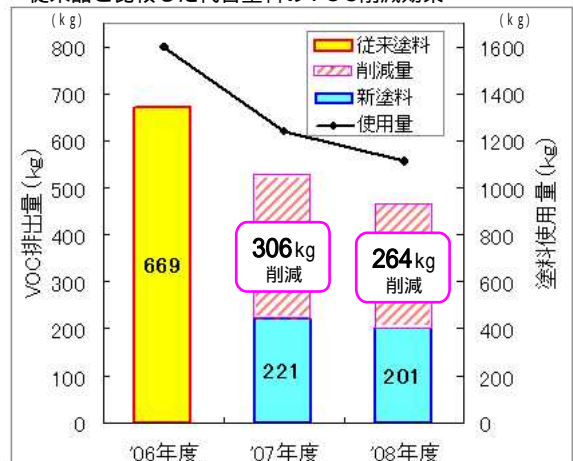
従来火力発電機器に使用していた塗料(TZプライマー)を、2007年度から一部低VOC塗料(TZプライマーXL)に代替することにより、化学物質排出量の削減を行っています。

このTZプライマーXLは、塗料メーカーと一緒に開発した塗料で、従来品に比べて44%もVOC含有量が低いものです。

該当する作業で、従来品を使用した場合より、2008年度では年間で264kg削減できました。

VOC: volatile organic compounds (揮発性有機化合物)
揮発性を有し、大気中で気体状となる有機化合物の総称

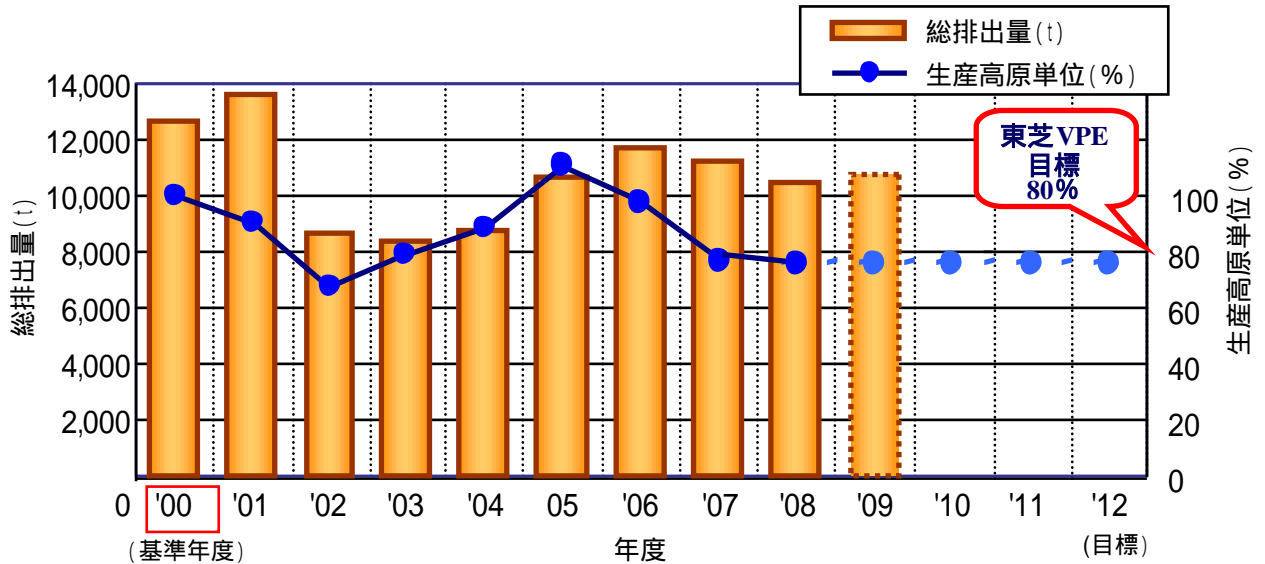
従来品と比較した代替塗料のVOC削減効果



● 資源の有効活用（廃棄物削減）

京浜事業所は、生産活動により発生する金属類、廃棄物について排出量の削減と再資源化に取り組んできました。主な取り組み事項は、「分別徹底による再資源化の推進、横浜市廃棄物交換システムの活用、木材や発泡スチロールの MATERIAL リサイクル化、木製パレットのリユース、通い箱や簡易梱包によるリデュース」です。

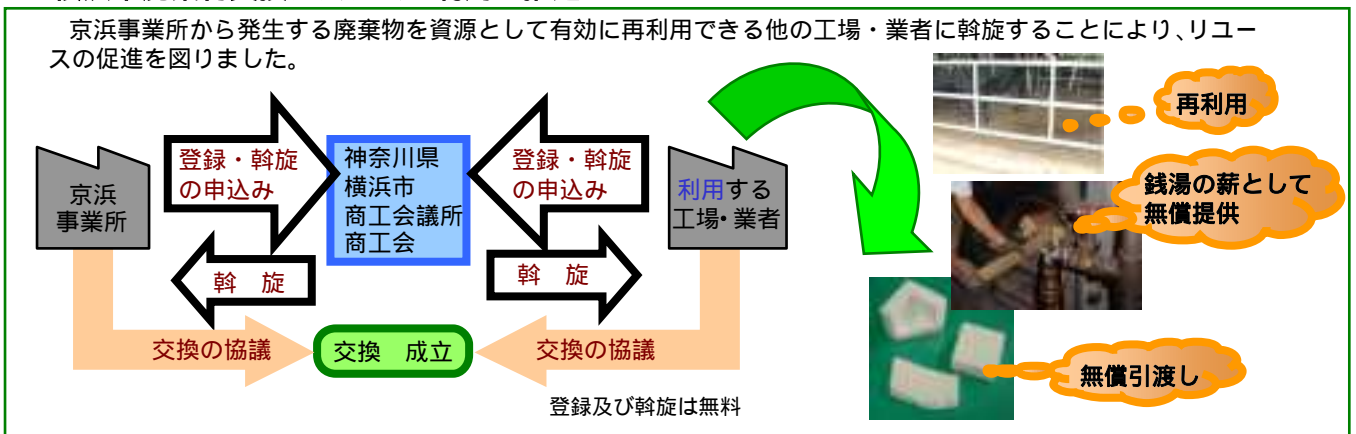
2008年度は横浜市廃棄物交換システムの活動推進、分別排出の徹底を図り、総排出量では前年度比7%削減、生産高原単位では8%削減となりました。



資源の有効活用事例

横浜市廃棄物交換システムの利用の推進

京浜事業所から発生する廃棄物を資源として有効に再利用できる他の工場・業者に斡旋することにより、リユースの促進を図りました。

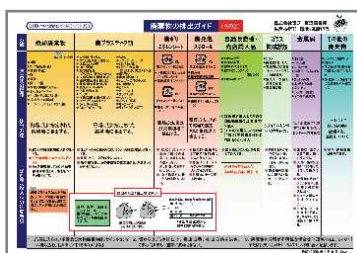


再資源化活動事例

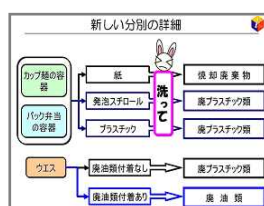
廃棄物の分別改正とその周知

廃棄物の分別方法を変更、改正内容を周知するため、事業所内の全部門に分別指導を実施。並びに分別ガイドの改正。

改正ルール施行後、分別状況の確認のため全部門の代表者を集めて現状と今後の取組みについて確認しあった。



改正された分別ガイド

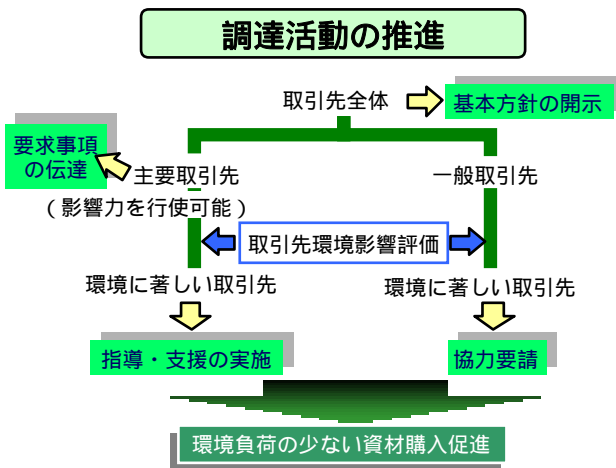


改正内容の説明資料



分別状況説明会

● 調達活動



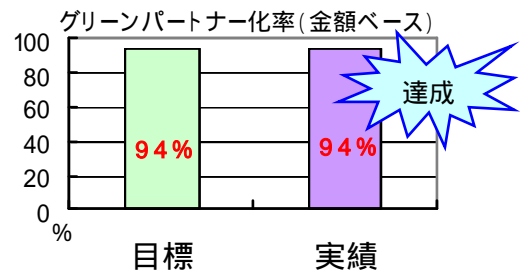
京浜事業所は、取引先への環境保全文書の配布により環境保全情報の周知を行うと共に、取引先の環境影響評価に基づき、指導・支援、協力要請を行っています。

京浜事業所は、東芝グループのグリーン調達ガイドラインに基づいて、環境負荷が小さい製品、部品、材料、原料を調達しております。この選定にあたっては、それらの調達品を環境負荷の低減に関する項目で評価すると共に、取引先の環境保全活動への取組状況を考慮してランク分けを行っております。

東芝グリーン調達ガイドラインに基づく取引先評価

ランク	評価点合計	調達選定基準
S	超110点 または ISO14001 認証取得	優先取引
A	85～110点	改善要請、指導支援を前提
B	55～80点	
C	25～50点	
D	20点以下	

京浜事業所は優良ランクS、Aをグリーンパートナー（GP）とし優先して取引を行っています。



2008年度より、従来の取引先数から取引金額に基準が変更されました。

● 環境会計

環境保全活動に要したコストとそれによって得られた効果を把握し、事業活動の指標として活用するために、1990年度から環境省のガイドラインに準拠した「環境会計制度」を導入しています。

2008年度の環境保全活動のため投資した金額は100百万円、要したコストは7,693百万円で、得られた効果は1,755百万円となりました。

環境保全活動コスト（環境保全のための投資額及び費用額）

[単位 百万円]

分類		内容	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	大気、水質、土壌汚染防止など	12	167
	地球環境保全コスト	温暖化防止、オゾン層保護など	88	61
	資源循環コスト	資源の効率的利用、廃棄物のリサイクルなど	0	86
上・下流コスト		グリーン調達、購入	0	1
管理活動コスト		監視、教育、自然保護など	0	177
研究開発コスト		環境調和型製品開発など	0	7,190
社会活動コスト		環境保全団体支援、情報開示など	0	0
環境損傷コスト		大気賦課金、土壌汚染修復など	0	10
合計			100	7,693

効果

[単位 百万円]

分類	内容	効果額
実質的経済効果	事業活動に伴って使用された恵那ルギー関連、廃棄物処理・リサイクル関連、水の使用量及び投入物質量削減などによる経済効果	28
みなし経済効果	排水及び大気への排出量の削減効果を、仮定を用いて貨幣価値に換算した効果	13
リスク回避効果	土壌・地下水等の汚染防止を目的とした環境構造物投資による将来的な効果	1,714
合計		1,755

● 全員活動・地域との共生、コミュニケーション ●

● 従業員の啓蒙活動

環境教育

ISO14001に基づき、従業員全員（構内駐在業者を含む）を対象に環境教育を実施しています。環境教育の目的は、環境マネジメントシステムの理解と法律順守を徹底し、環境保全の重要性や、それぞれの業務が環境に与える影響を自覚すると共に、従事業務内容に応じた力量を確保することです。

廃棄物の分別指導

全部門を対象に廃棄物の分別を指導しました。分別精度の向上により資源化の促進を図っています。

モデルショップ説明会開催

EASTER（ 1 ）で高評価を得るための要件をそろえたモデルショップを整え、部門に説明しました。

1 EASTER: Environmental Audit System in TOSHIBA on basis for Eco Responsibility (東芝総合環境監査)



モデルショップ説明会の様子

従業員への情報発信

- ・身近に実践できることやちょっとした心がけを紹介していくちょこっとエコ
- ・事業所内に設置された環境掲示板への環境情報の掲示
- ・環境インフォメーションレター
電力システム社に關係するすべての従業員に年に4回、環境インフォメーションレターを配布し、従業員及び、ご家族の方に環境に対する電力システム社の取り組みを紹介しています。



ちょこっとエコ



環境掲示板

● 環境月間

環境月間（6月）

鶴見クリーンキャンペーンに参加

入船公園～フラワーロードのごみ拾い活動を実施しました。

チーム・マイナス6%への参画

- ・クール・ビズの推進：ノーネクタイを推進しました。
- ・冷房設定温度を28℃に徹底しました。
- ・ライトダウンキャンペーンへの参加：本工場と西分工場のネオン看板のライトダウンを実施しました。

廃棄物パトロール

分別をチェックする「廃棄物パトロール」を実施。各部門の分別状況を確認し、指導すると共に、従業員にゴミ分別に関する理解を促しました。



LED掲示板

3R推進月間（10月）

横浜市廃棄物交換システムの活用促進

廃木材（パレット）と木くずについて交換を成立させました。

廃棄物集積場の分別確認

通勤路清掃

省エネ月間（2月）

チーム・マイナス6%への参画

- ・暖房設定温度を20℃に徹底しました。
- ・既存設備の省エネ機器への更新を行いました。
- ・水多用施設の設備点検を行いました。
- ・環境家計簿登録推進：家庭でのCO2排出量を把握することで、削減への取り組みのきっかけにしてもらう環境家計簿への登録を推進しました。
- ・工場配管のエア漏れ点検、修理を実施しました。



ライトダウンキャンペーン

異常事態想定訓練

異常事態想定訓練は、環境負荷が著しく高い施設に対し、起こりうる異常事態を想定し、その対処方法について標準化しています。各部門で年度計画に則って異常事態想定訓練を実施し、不具合を是正しながら、環境事故の未然防止に努めています。

2008年度は環境負荷が特に高いとして定められた27施設で異常事態想定訓練を実施すると共に、各部門で自主的に設定した施設・工程等でも訓練を行っています。



廃棄物集積場火災事故想定訓練

外部コミュニケーション

行政との交流

かながわ地球環境賞受賞

かながわ地球環境賞とは、神奈川県及びかながわ地球環境保全推進会議により地球環境保全に向けた実践的な活動を行い、その業績や功労が顕著である個人や団体に贈られる賞です。

京浜事業所は、火力、水力、原子力及び新エネルギーに関わる機器の製造を通して、CO₂排出量削減に有効な製品の開発を行い、また、事業活動に伴う環境への負荷を提言する取り組みが積極的にされていることが評価されました！



かながわ地球環境賞受賞

「エコぼると」掲載

環境に関するさまざまな情報を提供している「エコぼると」（よこはま環境行動情報サイト）のコラムに横浜企業の環境行動として、京浜事業所の取り組みが掲載されました。

（2008年5月）



URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyoku/kkjs/>

市民との交流

横浜市「環境月間パネル展」に出展

2007年度より6月の環境月間イベントとして横浜市が主催している「環境月間パネル展」に出展しています。2008年度も横浜市中央図書館に展示し、京浜事業所の環境保全活動について紹介しました。



環境月間パネル展

留学生インターンシップ生受け入れ

関東学院大学、東北大学大学院より2名の留学生を研修生として受け入れました。

研修生には、廃棄物の管理方法の学習や廃棄物処分業者の現地確認、また、研修生が内部監査員となり監査を行う模擬内部監査を体験していただき、京浜事業所の環境への取り組みを学んでいただきました。



インターンシップ生実習の様子

他社・他事業所との交流

(株)東京臨海リサイクルパワー見学

他事業所との交流会を実施

同じ横浜地区にある東芝生産技術センターとの交流会を実施しました。環境保全設備の管理方法や行政との連携の仕方など、優れているところを良い見本として、京浜事業所は環境の取り組みに対して更に高いレベルを目指していきます。

取引先との交流

主要取引先巡回

グリーン調達活動の一貫として、主要取引先を対象に巡回指導を実施しています。2008年度は3社を訪問し、環境面での確認・チェックを実施し指導を行いました。

廃棄物処分業者の現地確認

京浜事業所から排出される廃棄物の処理業者に対し現地調査を実施し、適切に処理されていることを確認しました。



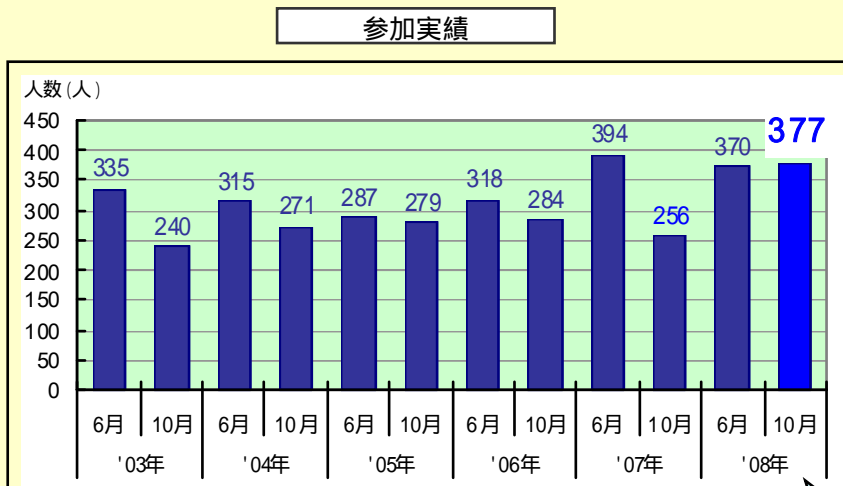
廃棄物処分業者の現地確認

● 全員活動・地域との共生

事業所周辺の清掃

従業員の全員活動の一環として、6月(環境月間)と10月(3R月間)に周辺地域の清掃ボランティアを実施しています。

1994年より継続して通勤路の清掃を実施しており、2008年度も多くの方に参加していただき、地域の美化に努めました。



清掃ボランティアの様子

10月は当月の参加者としては過去最多の377名でした!

● 海芝公園

京浜事業所は敷地の一部を海芝公園として地域の方に開放しています。つばさ橋を望む海の上の駅としてとても魅力ある海芝浦駅を訪れた方に、電車発車時刻までの憩いの場を提供しています。

2006年に横浜市『京浜の森づくり』に賛同し、地域への水際緑地の公開事業の一環として海芝公園の拡張を実施いたしました。


『京浜の森づくり』
～京浜臨海部で緑のネットワークづくり～

『京浜の森づくり』とは、横浜市が提唱し、企業、市民、行政が協働して、企業緑地や公共の緑などをつないで壮大な緑のネットワーク「森」をつくる計画です。

鶴見区、神奈川区の臨海部（面積約1.600ha）を対象とし、うち末広地区約235haでは、平成17年12月に当社を含め10社と横浜市長が「協働緑化宣言」を行っています。

海芝公園入口には、「京浜の森ロゴマーク」を掲げて、企業、市民、行政それぞれが環境行動として緑化を進めるよう呼びかけています。

出典：横浜市 環境創造局 HPより
URL：http://www.city.yokohama.jp/me/kankyoku/kisha/h17/051109-1.pdf




工業地帯を緑が彩る



東京湾



東芝京浜事業所敷地内



事業所のすぐ横、敷地の一部を開放している。



『京浜の森づくり』で拡張した部分

海芝公園

「海芝公園」ご利用案内

- 営業時間 9:00
閉園時間 20:30
- ご利用にあたってのお願い
① ご中は、必ず静かに行きましょう。
② タバコは付近にある喫煙所でお吸いください。
③ 次のような行為はご遠慮下さい。
・野火の発生
・ごみ・紙屑の持ち出し
・ペットの持ち込み
・飲酒
④ お車の方は、必ずキープを投入して下さい。
株式会社 京浜 京浜事業所
園路課 園路係



2009年度の新規取り組み

事業所における環境配慮

地球温暖化場防止

- スクリー式コンプレッサ導入
- シャワー室温水器更新
- 塗装場の乾燥機更新
- 物流CO2削減に向けてのデータ収集



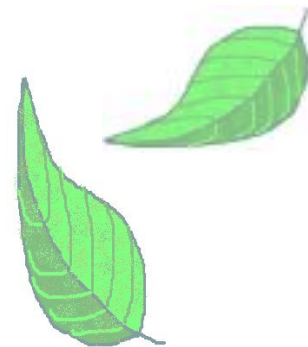
スクリー式コンプレッサ

化学物質の排出量削減

- 塗装場に除去装置導入

資源の有効活用

- 分別の徹底
- 節水ゴマによる水受入量の削減
- 構内不要物の有効利用



EMSの持続的改善

- 電力システム社とマニュアルの統合
- ISO14001更新審査

全員活動・地域との共生・コミュニケーション

環境コミュニケーション

神奈川県「環境インターンシップ」生受け入れ

2009年度より、神奈川県環境農政部主催である「環境インターンシップ」生の受け入れを行います。少しでも多くの学生に参加していただき、京浜事業所の環境業務を理解していただくとともに、環境活動に対する意欲を高めるきっかけになってもらえればと思います。

労使共催イベント「東芝の森・伊勢原植林体験会」

東芝は、「東芝グループ150万本の森づくり」の一環として、2009年3月に神奈川県が創設した「森林再生パートナー」の第1号となり、神奈川県、伊勢原市、伊勢原市森林組合と「かながわの森林再生に関する協定」を締結しました。京浜事業所でも労使共催で植林体験会を開催します。



2009年度スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
審査 監査	指摘事項の改善					京浜事業所内 内部監査	[電力社] 内部監査	ISO14001 審査更新	指摘事項の改善			
	前年度指摘事項の改善と横展開				調査、下期計画	評価ランク向上改善実施			EASTER 監査受査	指摘事項の改善		
環境教育	新人教育	環境教育実施		フォローアップ教育								
環境月間		環境月間 通勤路清掃					3R月間 通勤路清掃				省エネ月間	
広報				環境活動紹介 リーフレット発行				環境報告書 発行				

株式会社 **東芝** 電力システム社 京浜事業所

TOSHIBA CORPORATION Power Systems Company
Keihin Product Operations

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町2丁目4番地
(045) 510-5016 (大代表)

4,2-chome, Suehiro-cho, Tsurumi-ku, Yokohama 230-0045

Phone: +81 45 510 5016 <http://www.toshiba.co.jp>



東芝グループ地球環境マーク

